

図書館来館者数の増加を目的とした キャンペーンの導入

依光朋子，山崎裕司，ロー亜矢子
高知リハビリテーション学院図書館

【はじめに】本学院図書館では，ポイントカードや粗品を強化刺激として用いることで利用者数の増加に努めてきた。しかし，図書館利用に不慣れな1，2年生の図書館利用率は低い状態であった。また，1時限目に授業がない学生の登校時刻が遅くなるため，朝の時間帯の利用者数が少なかった。そこで，それらの利用状況を改善するため，ポイントカードのポイントが貯められる利用者紹介キャンペーンと早朝利用キャンペーンを実施した。

【方法】対象は本学院在学学生569名。キャンペーンについては掲示板，チラシによって2週間の告知を行った。ポイントは10ポイントで貸出冊数1冊増加，漫画5冊貸出，映画（DVD）1本の貸出，45ポイントで短期実習中（5週間）の貸出1冊増加，90ポイントで長期実習中（1週間）の貸出1冊増加などの特典と交換できる。なお，漫画とDVDは通常借りることはできない。

利用者紹介キャンペーン（2ヶ月間）では，図書館で本を借りたことがない，または国家試験問題にチャレンジしたことがない利用者を紹介した場合，紹介者に20ポイントを付与した。そしてこのキャンペーン期間中の新規来館者数を平成25年度同時期の新規来館者数と比較した。国家試験問題とは，過去の国家試験問題（1問/日）の解答を行うもので，正答数が一定以上貯まると粗品と交換することができる。

早朝利用キャンペーン（4週間）は，朝8時30分～10時の間に図書館に来館し，本を借りる，または国家試験問題にチャレンジした利用者には10ポイントを付与した。そしてこのキャンペーン期間中の早朝利用者数を告知期間中の早朝利用者数と比較した。

【結果】平成25年度同時期の新規来館者数は27人であった。利用者紹介キャンペーンでの新規来館者数は79人であり，193%の増加を認めた。

2週間の告知期間中に，本を借りる，または国家試験問題にチャレンジした早朝利用者は1日平均で9.9人であった。キャンペーン実施中の早朝利用者は20.7人であり，大幅な増加を認めた。

【考察】良いことが生じる可能性が見通せた場合，行動は増加・定着しやすい。逆に，嫌なことが生じる可能性が見通せた場合，行動は増加しない。学内でのコミュニケーションに慣れない1年次生にとって図書館の利用は予測できない状況が生じ得る場所である（例えば，騒がしくして叱られる）。また，1時限目の授業がない学生にとって，早めに登校することは朝の余暇時間が削られることになる。これらは学生にとって好ましい状況ではなく，このことが利用者数を低く抑えていたものと推察された。ポイントは，漫画やDVDの貸出，貸出冊数の増加などの特典と交換ができ，学生にとって良いことである可能性が高い。そこで，キャンペーンではポイントの付与によって図書館への来館行動の強化を図った。いずれのキャンペーンでも利用者数の増加が得られたことは，ポイントの増加が強化刺激として有効に機能したものと考えられた。